

【 学校教育目標 】（基本目標）

笑顔あふれ活力ある生徒の育成

【 具体目標・目指す生徒像 】

- 自ら学ぶ生徒（確かな学力）
 - ・ 自ら課題を見付け、自ら学び、課題を解決できる生徒

- 思いやりのある生徒（豊かな人間性）
 - ・ 自他の生命を尊重し、差別や偏見がなく、相手の立場になって考え行動でき、円滑にコミュニケーションできる生徒

- たくましく生きる生徒（健康・体力）
 - ・ 心身ともに健康で、元気に生き生きと最後までねばり強く活動できる生徒

〔 学校教育課題 〕

- 1 いじめに早く気付き、迅速に対応できる組織の確立
- 2 インクルーシブ教育の積極的な推進に基づく「安全・安心な風土の醸成」
- 3 自律・共生の育成、リーダーの養成
- 4 確かな学力の定着
- 5 問題解決能力（自己解決能力）の育成
- 6 基本的な生活習慣・学習習慣の確立
- 7 自己有用感の涵養（生徒会活動、委員会活動等）
- 8 小中一貫した教育の推進
- 9 ICT機器（電子黒板、タブレット端末）を活用した学習の推進
- 10 地域や保護者との信頼関係・協力体制の確立
- 11 コミュニティ・スクール「剛志学府」の推進
- 12 効果的・効率的な学校組織の構築（働き方改革の推進）
- 13 SDGs教育の一層の推進
- 14 安全教育の推進（交通事故・学校事故等の未然防止）

《 学校教育目標 》

〔 基本目標 〕

笑顔あふれ活力ある生徒の育成

〔 具体目標 〕

- 自ら学ぶ生徒 (確かな学力)
- 思いやりのある生徒 (豊かな人間性)
- たくましく生きる生徒 (健康・体力)

《 学校経営方針 》

1 信頼を基盤とした教育活動の積極的な推進

○ 生徒と教師との信頼関係の確立

- ・ 教育相談機能を高め、生徒理解(背景を註)に努める。
- ・ 生徒の行動や結果を適切に評価し、具体的な改善点や助言を行い、目標達成や成長を促す。

○ 保護者、地域との信頼関係の確立

- ・ 保護者に教育活動への理解を得られるよう適切・迅速に情報発信を行う。
- ・ 学校運営協議会で、保護者、地域の理解と協力を得ながら、地域とともにある教育活動を推進する。

○ 教職員相互の信頼関係の確立

- ・ 公正公平な職務の遂行及び服務規律の遵守

2 確かな学力の向上

- ・ 自律した学習者の育成を目指し、授業（ICT活用）と家庭学習の連動を図る。
- ・ 総合的な学習の時間に探究活動を取り入れ、自身で設定した課題を解決させる。

3 生徒の確かな成長に向けた教育活動の推進

○ 基本的な生活習慣（睡眠・食事等）の確立

- ・ 基本的な生活習慣（睡眠・食事等）の確立を目指し、保健委員会や、学校保健委員会において、周知啓発を図る。
- ・ 食や健康に対する意識を高めるために、弁当の日、フードドライブ（公民館事業）を実施する。

○ エージェンシー（自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力）を発揮する場の設定

- ・ 生徒会、委員会、学級活動を通して、校則を定期的に見直したり、学校委員会（生徒会本部、専門委員長、各部部长）が主催者となって、異学年交流（レクリエーション）を企画したりする。
- ・ 職場体験や御嶽山クリーン作戦、公民館のボランティア活動を通して、自らの主体性を発揮し、地域社会に貢献できるようにする。

○ いじめ防止基本方針に基づいた対応の徹底

- ・ 「いじめ防止基本方針」を確認し、いじめの早期発見・早期対応に努め、年間を通し、いじめ防止に向けた取組を確実に挙る。

○ 不登校（ユニパス）傾向生徒が、居場所を実感できる

- ・ 不登校（ユニパス）傾向の生徒には、Pルームやほっとる～むの利用を促し、居場所が実感させ、その場所で過ごす生徒、職員と温かい人間関係を構築する。

○ 情報モラル教育の推進

- ・ 情報モラル講習会や、日常的な指導により、生徒の情報リテラシーを向上させる。

○ 安全教育の推進

- ・ 交通法規の遵守、防犯、防災（避難訓練）などにおいて、「自分の命は自分で守る」意識の徹底を図る。

4 小中一貫した教育の推進

- ・ 小中合同のあいさつ運動や、一部学年との合唱発表会の実施
- ・ 小中連携会議（年3回）や、教職員相互の授業参観の実施